

# 三者会話の雑談の中に現れる話し合いの合意形成過程 — 日本語接触場面と中国語母語場面の比較分析 —

丁 一然(東京外国語大学大学院生)

## 1. はじめに

日本語学習者の会話能力向上のために、日本語授業で学習者が日本人学生と話し合いながら課題解決する活動が行われることがある。そうした活動で生じる葛藤と解決策を解明する研究も多数行われている(神谷他 2007)。だが、授業活動だけでなく、日常生活の雑談の中でも何かを決めるために話し合いがよく行われるが、それらに関する研究は少ない。特に、雑談の中の話し合いは自由度が高く、合意形成に至るまでに話題転換が数回行われることもあるため、課題解決を主たる目的とする話し合いの過程とは異なると考えられる。そこで、本研究では、同じ中国人留学生(日本語上級学習者)が参加する日本語接触場面と中国語母語場面での三者会話の雑談の中に現れる話し合いの部分に着目し、両場面での合意形成過程の特徴を分析する。これにより、日本語接触場面での合意形成の留意点を明らかにする。

## 2. 先行研究

大浜(2000)では、日本人学生同士の二者会話と外国人留学生同士(国籍問わず)の日本語での二者会話の話し合いを分析し、合意形成の過程を比較した。会話データは、友人関係のロールプレイで、卒業論文のためのアンケート調査への協力を依頼し、調査日時と場所について相談するという設定であった。そして、日時と場所の相談開始から合意形成に至るまでの部分を「相談局面」と呼び、分析の対象としていた。「相談局面」は、さらに「テーマ導入の問いかけ」、「提案」、「合意」に分けられている。分析の結果、日本人学生と外国人留学生の相談局面における役割意識、提案の仕方、そして合意する際の表現に違いがあったことがわかったという。まず、日本人学生同士では相談者と被相談者の2つの役割に分かれていた一方、留学生同士ではお互いに対等な相談者の関係で会話を進めていたという。次に、提案する際、日本人学生は曖昧な提案をし、さらに提案内容を絞り込む必要がある傾向が見られたのに対し、留学生同士の会話ではより限定的な提案をする傾向があったとしている。そして、合意形成する際に、日本人学生は自分の意見を明示的ではない表現で表していたが、留学生は明示的な表現を使っていたという。

## 3. 研究方法

本研究の参加者は、友人関係の中国人留学生3名(C1, C2, C3)と日本人学生1名(J)である。C1, C2がまずJと日本語で自由な話題で雑談し(日本語接触場面)、その直後にC3と母語の中国語で同様に雑談した(中国語母語場面)。これらを全て録画し、計2つの会話を各30分程度収集した。その後、各参加者に対して個別にフォローアップ・インタビュー(以下 FUI)を行い、会話時の発話の意図を確認した。調査者から参加者に会話データ収集のお礼に夕飯を提供するという事前説明をしていたため、両場面とも「夕飯の行先を決める」話し合いの断片(日本語接触場面2つ、中国語母語場面4つ)が雑談の間に自然と見られた。そこで、これらの断片を抽出し、分析対象とする。

本研究の分析対象は、雑談における複数の話題の中に現れる話し合いであるが、合意形成過程の分析枠組みについては、依頼・相談のロールプレイを分析した大浜(2000)の「テーマ導入」、「提案」の枠組みが援用できる。だが、大浜(2000)の分析対象は二者会話であり、提案した後すぐに合意が得られている。それに対し、本研究は三者会話であるため、提案に対して、複数の聞き手が異なる意見を持ち、同意のほか、質問・確認、不同意、説得、あいづち、沈黙などによって交渉の様子も見られ、また、話し合いの話題が途中で違う話題に転換する場合もあった。そのため、本研究では大浜(2000)をもとに、表1のように、1.合意形成の過程を「①テーマ導入」、「②提案」、「③提案に対する交渉」に分けることとする。そして、2.合意形成の結果として、合意形成できたか否かにより、「a.合意形成の成立」、あるいは「b.話題転換・終了」のいずれかに分類する。

表1 本研究の分析枠組み

1. 合意形成の過程	①テーマ導入	話し合いの話題を開始すること、および話し合いの話題に戻すこと
	②提案	情報提供、共同行為要求、同意要求などでアイデアを出すこと、およびその理由を説明すること
	③提案に対する交渉	提案に対する質問・確認、同意、不同意、不同意者への説得、あいづち、沈黙などによる交渉
2. 合意形成の結果	a. 合意形成の成立	会話参加者全員が提案に同意し、意見が一致すること
	b. 話題転換・終了	合意形成が成立せず、話し合いの途中で話題が転換・終了すること

<sup>1</sup> 「②提案」の発話機能は、ザトラウスキー(1993)を参考にした。

#### 4. 中国人学習者による話し合いの比較分析

まず、日本語接触場面(図 1)と中国語母語場面(図 2)の両場面で、「夕飯の行先を決める」話し合いが 30 分の会話全体の最初的话题として「①テーマ導入」された。その後、主に C1 と C2 による「②提案」(網掛け部)があり、他の参加者がその「③提案に対する交渉」を行い、話し合いがなかなか進まない場合は「b. 話題転換」され、しばらく雑談をした後で、再度、「①テーマ導入」で話し合いの話題に戻るという過程が共通して見られた。だが、両場面では、「①テーマ導入」のタイミング、「②提案」の回数(2 回と 9 回)や仕方、「③提案に対する交渉」が異なっていた。その結果、日本語接触場面では、合意形成できずに「b. 話題終了」したのに対し、中国語母語場面では最終的に「a. 合意形成の成立」が見られた。

断片 1	テーマ導入(C1)→提案 A(C1)→不同意 A(C1)→好みの質問(C1)→応答(J)→提案 B(C2)(日本語の問題による誤解)→話題転換(C1)
断片 2	テーマ導入(C2)→提案 A に対する確認(C2)→不同意 A(C1)→説得 A(C2)(途中で割り込み発話によって終了)→話題終了(C1)

図 1 日本語接触場面における話し合いの過程

断片 1	テーマ導入(C1)→提案 B(C2)→不同意 B(C3)→提案 C(C3)→不同意(C2)→提案 A(C2)→不同意 A(C1)→提案 D(C2)→不同意 D(C1)→話題転換(C3)
断片 2	テーマ導入(C2)→提案 E(冗談,C1)→提案 F(排除,C1)→同意 F(C3)→不同意 F(C2)→提案 G(C2)→不同意 G(C1,C3)→話題転換(C1)
断片 3	テーマ導入(C2)→提案 F(排除,C1)→同意 F(C3)→話題転換(C1)
断片 4	テーマ導入(C2)(割り込み発話による導入)→提案 H(C1)→同意 H(C2)→不同意 H(C3)→説得 H(C1,C2)→合意形成(C1,C2,C3)

図 2 中国語母語場面における話し合いの過程

以下、両場面の話し合いの合意形成過程について、会話例をもとに具体的に分析する。なお、会話例の左側は文字化資料であり、その中の記号「[ ]」は複数の参加者の発する音が重なって始まっていること、「(……)」は実際に音声の重なりがないが、まだ話の途中で中断された部分、「. h」は吸気音とその長さ、「hhh」は笑い、「?」は語尾の音が上がっていること、「:」は直前の音が伸ばされていること、を示す。会話例の右側には、話し合いの過程とその具体的な行為を示す。

##### 4.1 テーマ導入

日本語接触場面と中国語母語場面の両場面で、「①テーマ導入」に関して 2 つの共通点が見られた。1 つ目は、会話全体の最初的话题として C1 が話し合いの話題を開始するという「①テーマ導入」をしていた。2 つ目は、話し合いの話題から一旦ずれるも、C2 が再び話し合いの話題に戻すという「①テーマ導入」をしていた。FUI では、最初の「①テーマ導入」をした C1 は、話し合いの結論よりも、会話を進めることを気にしていたという。一方、話し合いの話題に戻した C2 は、会話データ収録中に、夕飯の行き先を決めようと考え、その結論を気にしていたという。そのため、C2 は、他の参加者に話し合いの話題から別の話題に「b. 話題転換」されても、また話し合いの話題に戻すための進行役になっていた。しかし、両場面を比較すると、話題に戻す際の「①テーマ導入」のタイミングが異なる様子が見られた。

まず、会話例 1 は、日本語接触場面で、C2 による「タピオカ」の話題から話し合いの「①テーマ導入」までの例である。ここでは、話し合いの先行話題(571~577)で、C2 がタピオカが苦手なことなどについて、C2 と C1 が J に話している。そして、576 の後、三人が笑ったり、話を繰り返したりして、会話のテンポが遅くなっている。少し沈黙した後、C2 が 578 で「では話を戻せば」と、話し合いの話題に戻す「①テーマ導入」をした。FUI で C2 は夕飯の行き先が気になり、先行話題も「タピオカ」という食べ物話題であったため、話し合いの話題に戻したという。

##### 会話例 1 日本語接触場面 断片 2【①テーマ導入(C2):タピオカ→夕飯を決める】

571 C2:私はタピオカが嫌いでもルクティを注文する時にまあ[絶対タピオカを、なしに			
572 C1: でタピオカなしってずっとそうやった hhh	[hhh タピオカなし、タピオカミルクキーで、ミルクティ		
573 J:hhh え::			
574 C1:本当です、本当です hhh		先行話題	タピオカ
575 C1:なんかラーメン、ラーメン、なんか、なんか牛肉ラーメン牛肉なしとい			
576 C2: [牛肉は必要です			
577 C1:牛肉は必要ですか hhh			
(.)			沈黙
578 C2:では話を戻せば、今日の晩ご飯なに、にしますか		①テーマ導入	話し合いに 戻す

一方、会話例 2 は、中国語母語場面で、C2 が先行話題「宝くじ」から話し合いの話題に戻す「①テーマ導入」の例である。C1 と C3 の宝くじの話題の途中で、C2 が 141 で割り込み発話を行い、「夕飯を決める」話し合いの話題に戻した。

##### 会話例 2 中国語母語場面 断片 4【①テーマ導入(C2):宝くじ→夕飯を決める】

137 C3:哪有好重的彩票啊	137 C3:当たりやすい宝くじどこにあるんだよ		
138 C1:哪有好中性的我立马[就到那个国家去	138 C1:どこかにあったらすぐ[その国行っちゃう		
139 C3: [刮刮乐我都没中过	139 C3: [スクラッチ当たったことないし	先行話題	宝くじ
140 C1:刮刮乐[我也没中过。	140 C1:スクラッチ[僕も当たったことない		
141 C2: [不,不是我觉得我们现在赶紧把吃 啥商量定下来,不然等一下还要花口舌	141 C2: [いや,いや,やっぱり何食べるのかを決め ようよ,そうしないとこの後また話さなきゃいけないし	①テーマ導入	話し合いに 戻す

このように、日本語接触場面では、C2 が先行話題が終わった後で、先行話題に関連のある話題を選択し、話し合いの「①テーマ導入」をしている。一方、中国語母語場面では、参加者の母語で話されたため、会話のテンポも速く、雑談の話題が終了した後、あるいはその途中で急に話し合いの「①テーマ導入」をする様子も見られた。今回の参加者が全員友人関係であるため、割り込み発話で先行発話を妨害したとしても、相手に違和感を与えることなく、話し合いの話題に戻すことで、むしろ「a. 合意形成の成立」を促進させることに貢献していたとも言えるだろう。

## 4.2 提案

日本語接触場面では C2 が情報提供で「②提案」していたが、それが「②提案」であると J が意識できなかった場面が見られた。それに対して、中国語母語場面では、C2 が共同行為要求、同意要求などで明確に「②提案」をしていたため、他の参加者もそれが「②提案」であると理解できていた。

まず、会話例 3 では、日本語接触場面において、15 で J が辛い料理が好きだと述べ、それに対して C2 が 17 で割り込み発話で、この前行った「池袋の串焼き」店を J に「②提案」している(図1:提案 B)。だが、FUI によると、J はまだ発話の途中であるため、C2 の前置きがない唐突な情報提供を「②提案」だと気づかなかったという。さらに、C1 は、C2 がこの前その店で食べたばかりだから行かなくてもよいだろうと思ひ、19 で「いや、食べたことあるでしょう」と発話し、C2 に不同意している。だが、「食べたことがある」という発話には主語がないため、C2 はそれを不同意だと理解せず、「J が食べたことあるでしょう」という意味だと勘違いし、「そうですか?」と J に質問した。J は 2 人のこのやり取りを理解していなかったが、それを確認せず、21 で昔 C1 と行ったことのある店について話そうとした。その途中の 22 で、C1 が割り込み発話を行い、その店について話し出し、C2 が「②提案」した「池袋の串焼き」店の話から逸れてしまった。このように、3 人とも「③提案」に対する交渉を行っているものの、提案の仕方と理解の問題で、話題を徐々に違う方向に進めていってしまった。

会話例 3 日本語接触場面 断片 1【②提案 B(C2):池袋の串焼き】

14 C1:そうですね、Jも中華好きですか		質問
15 J:あ、そうですね、なんか、辛い料理が、[好きです、[辛い:		応答
16 C1: [辛い料理		あいづち
17 C2: [そうですか前になんか、同級生4人でなんか、池袋の.: h 串焼きに、食べに行ったことがあって、なんか、カエルの:ウシガエルが、とても美味しか[ったです	②提案	情報提供
18 J: [あ:そうですか=	③交渉	あいづち
19 C1:=いや、食べたことあるでしょう (.)		不同意
20 C2:そうですか?		沈黙
21 J:うん、あの、一回なんか[(……)		確認
22 C1: [そう、まあ、なんか、前回:新宿の火鍋?一緒に食べたあれはめっちゃ辛いではないで すか、日本人:にとつての辛さは、どれほどの辛いは、なんか認める範囲か		b.終了

一方、会話例 4 では、中国語母語場面で C2 が再び「池袋の串焼き」の店を「②提案」している(図 2:提案 B)。FUI で C2 は、日本語接触場面で「②提案」していたが、相手の 2 人の反応がなかったため、再び「②提案」したと述べていた。今回は、言語の問題がなく、「池袋の串焼きとか行く? (去池袋吃烤串什么呀)」のような共同行為要求で明確に「②提案」している。さらに、この店のことは既に 3 人の中で共有しているため、C1 と C3 は「②提案」であるとすぐに理解できた。

会話例 4 中国語母語場面 断片 1【②提案 B(C2):池袋の串焼き】

01 C1:今天晚上吃什么呀	01 C2:今日の晩ごはんどうする	①テーマ導入	話題転換
02 C2:今天晚上吃什么呀 hhh	02 C2:今日の晩ごはんどうする hhh	聞き返し	
03 C1:想过[吗	03 C1:考え[た?	聞き返し	
04 C2: [去, 去哪吃啊	04 C2: [ど, どこいく?	聞き返し	
05 C1:不知道呀。因为我就, 就没想过要[(……)	05 C1:わかんない, だって僕, ご飯のこと[(……)		
06 C2: [去池袋吃烤串 什么呀[就上次那地方	06 C2: [池袋の串焼き とか行く?[この前のところ	②提案	共同行為 要求
07 C3: [就附近呗, 附近呗	07 C3: [近くにしよう, 近く	③交渉	不同意

中国語母語場面では、上述のような明確な「②提案」以外に、先行話題が「お盆(お盆)」についての話題であったため、話し合いの話題に戻った後すぐに「お盆食べよう(吃お盆啊)」と言うような冗談交じりの「②提案」や、食べたくないものを排除する「②提案」も見られた。そして、C2, C3 は「②提案」に不同意するだけでなく、新しい「②提案」もする傾向があった。それに対し、日本語接触場面では、C2 の「②提案」の仕方が情報提供の発話機能であり、「②提案」であるということがうまく相手に伝えられなかったことも、「a. 合意形成の成立」がなかった原因の一つであると言えよう。

## 4.3 提案に対する交渉

日本語接触場面では、上述のような学習者の日本語による誤解のほか、日本語母語話者 J が C1, C2 の「②提案」に対し、自分の意見を述べる代わりに、あいづち、頷き、沈黙などの「③提案に対する交渉」をしていた。それに対し、中国語母語場面では、学習者 3 人が「②提案」に対し、同意、不同意といったはっきりした意見を述べるほか、同意者が提案者とともに不同意者を説得するなどの「③提案に対する交渉」をしていた。

まず、会話例 5 は、日本語接触場面の会話例 1 の続きである。C2 が断片 1 で C1 が示した「新宿で夕飯を食べる」という提案 A (図 1) を 584 で再び示し、C1 と J に確認している。それに対して、C1 が 585 で「新宿危険ですよ」と不同意をした。そして、C2 が C1 の不同意を予測し、586 で割り込み発言を行い、新宿は安全だから問題ないと C1 を説得しようとしているが、途中で C1 に「b. 話題終了」され、合意形成が成立しなかった。J は、この断片 2 の「①テーマ導入」の後、あいづちも打たず、ただ C1 と C2 の話を聞いていた。FUI で J は、恐らく夕飯が中華料理になると予測し、中国人の C1 と C2 に任せてもいいと考え、特に反応せずに二人の「③提案に対する交渉」を聞いていたという。

**会話例 5 日本語接触場面 断片 2【③提案 A についての交渉(C1, C2)】**

584 C2:新宿ですか?	③交渉	確認
585 C1:新宿[危険ですよ, 新宿危険ですよ]		不同意
586 C2: [やはりしん, しん, いや, 新宿はなんか, そういう:歌舞伎町となんか:ホストの街に:接近しなければ, 安全, だと思えます]		説得
587 C1: [そろそろ時間ですよ, 用事があるんで hhh すみません]		b.終了 話題終了

一方、会話例 6 では、C1 が 148 で「添好运? (添好运?)」と中華料理店を挙げて「②提案」した後、C2 と C3 が同意と不同意の異なる意見に分かれた。C3 は 150 で、店の「待ち時間が長い(排很长时间队)」という理由を挙げて不同意を示した。それに対して、提案者 C1 と同意者 C2 が C3 を説得し、「③提案に対する交渉」が行われている。具体的には、C1 が 151, 154 でその店にしばらく食べに行っていないという発言を繰り返し、自分の行きたい気持ちを強調している。そして、C2 は 153, 162 で「今日は平日(现在是平日)」, 「まず行ってからにしよう(先过去再说吧)」と述べ、C3 の「待ち時間が長い」という不同意の理由について反論して、「添好运」に行こうと説得している。その結果、C3 が C1 の「②提案」に同意し、「a. 合意形成の成立」が見られた。

**会話例 6 中国語母語場面 断片 4【③提案 H の交渉(C1, C2, C3)】**

148 C1:添好运?	148 C1:添好运?	③交渉	提案 H	共同行為要求
149 C2:添好运可以呀	149 C2:添好运いいじゃん		同意	
150 C3:添好运肯定, 排很长时间[队吧现在]	150 C3:添好运は絶対, 待ち時間[が長いよ今]		不同意	
151 C1: [我好久没, 没吃过了]	151 C1: [僕しばらく食, 食べてない]		説得	
152 C3:[我也好久没吃过了]	152 C3:[僕もししばらく食べてない]			
153 C2:[不是, [现在, 现在是平日啊]	153 C2:[いや, [今日, 今日平日だよ.]		説得	
154 C1: [我几乎半年多没吃过了]	154 C1: [僕はほぼ半年くらい食べてない]		説得	
155 C2:而且我感觉最近[	155 C2:しかもなんか最近[(...)]			
156 C3: [新宿哪来的平日啊 (中略)]	156 C3: [新宿って平日あるわけないだろ(中略)]		不同意	
162 C2:先过去再说吧	162 C2:まず行ってからに[しよう]		説得	
163 C1: [添好运不错的, 真的还不错的, 蛮想吃的, 又, 又清淡, 价格[还行, 价格还行]	163 C1: [添好运いいじゃん, 本当にいいよ, 食べたいし, あ, あっさりしてて, 値段もまあまあ, 値段もまあまあ]	説得		
164 C3: [嗯, 那就添好运吧]	164 C3: [うん, じゃ添好运にしよう]	同意		
		a.成立	意見一致	

このように、日本語接触場面で C2 の提案がうまく会話相手に伝えられなかったほか、二人の会話相手の意見も十分に得られなかったため、「a. 合意形成の成立」まで至らず、その後に収録された中国語母語場面でも、同じ提案 A, B が再び示された。ここから、相手に配慮しすぎる、あるいは決定権を全て相手に任せると、話し合いを停滞させる可能性があるため、自分の提案の仕方を工夫しつつ、意見を明確に伝えるようにする必要があると言えよう。

**5. 考察と結論**

以上、本研究では、同じ中国人留学生が参加する日本語接触場面と中国語母語場面での三者会話の雑談の中に現れる話し合いの合意形成過程を比較分析した。その結果、日本語接触場面における合意形成過程の留意点として次の 3 点が明らかになった。

- (1) 雑談での話し合いでは、話題転換が頻繁に起こるため、適宜、話し合いの話題に戻す等の役割を担う進行役がいたほうが話し合いの合意形成の成立を促すと言える。
- (2) 日本語学習者が提案する際に、単に情報提供で自分の意見を述べるより、情報要求、共同行為要求などを用いて、相手の意見を求めながら提案したほうが、より相手に提案であることが理解されやすく、反応も得られやすい。
- (3) 会話参加者が互いに配慮しすぎて、自分の意見を明確に述べないと、話し合いを停滞させる可能性がある。そのため、相手の提案に対し、積極的に自分の意見を述べることで、より合意形成の成立が可能となる。

**参考文献**

大浜るい子(2000). 日本人学生と外国人学生における合意形成過程の比較 広島大学日本語教育学科紀要, 10, 65-71.  
 神谷順子・中川かづ子(2007). 異文化接触による相互の意識変容に関する研究—留学生・日本人学生の協働的活動がもたらす双方向的効果 学園論集, 134, 1-17.  
 ザトラウスキー・ポリー(1993). 日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察— くらしお出版